

長文読解練習 解答例

長文読解練習 1 「似顔絵」

< 本文を読む前に >

省略

< 練習 A >

( 1 )

第一段落：幼稚園の子ども

第二段落：プロ、一つ目と二つ目のタイプ

第三段落：プロ、三つ目のタイプ

第四段落：プロ、三つ目のタイプ

第五段落：プロ、三つ目のタイプ

( 2 )

省略

< 練習 B >

( 1 )

< 第二段落から >

1 . 「その人」：本人（＝似顔絵の対象）

2 . 「それ」：二つ目のタイプの人がかいた似顔絵

3 . 「あの人」：本人（＝似顔絵の対象）

4 . 「それ」：絵

< 第三段落から >

5 . 「このプロ」：実際に本人を見ながらかくのではなくて、聞きながらかく人

6 . 「その特徴」：犯人の特徴

7 . 「それ」：犯人の似顔絵

< 第四段落から >

8 . 「このタイプのプロ」：犯人を見た人からその特徴を聞きながら似顔絵をかく人

9 . 「それ」：(ある事件で) コンピューターを使ってかいた似顔絵 ( の人物 )

10 . 「その人」：9と同じ答え、または、犯人

< 第五段落から >

11 . 「その辺」：どれくらい正確に書けばいいのか、どの程度特徴をはっきりかけばい

いのかということ。

12. 「そのあと」：コンピューターで書いた似顔絵だけではだめだとわかったあと
13. 「彼ら」：三つ目のタイプのプロ（または、8と同じ）

(2)

1. <違う点>

子どもは、かく技術が高くないが、( 第二段落 ?.14 )  
プロは、かく技術が高い。( 第二段落 ?.14 )

2. <違う点>

子どもは、その人の特徴を強調してかくが、( 第二段落 ?.7-8と13 )  
タイプ1は、写真のように正確に、本人とそっくりにかく。( 第二段落 ?.7 )

3. <違う点>

タイプ1は、写真のように正確に、本人とそっくりにかくが、( 第二段落 ?.7 )  
タイプ2は、その人の特徴を強調してかく。( 第二段落 ?.7-8 )

4. <共通点> : その人の特徴を強調してかく。( 第二段落 ?.7-8と13 )

<違う点>

子どもは、かく技術が高くないが、( 第二段落 ?.14 )  
タイプ2は、かく技術が高くて、( 第二段落 ?.14 )  
絵に味付けがされている。( 第二段落 ?.16 )

5. <共通点> : どちらもできるだけそっくりにかく。( 第二段落 ?.21 )

<違う点>

タイプ1は、実際に本人を見ながらかくが、( 第二段落 ?.22 )  
タイプ3は、(その人の特徴を)聞きながらかく。( 第二段落 ?.22 )

(3) 元々の意味 : 食べ物や飲み物、料理などに味を付けること。

本文での意味 : 絵をかく人が自分の個性を発揮して独特の絵にすること。

(4) 第五段落の内容から考えると、これからもしばらくは三つ目のプロの仕事はなくな  
らないだろうと思います。

どの程度正確にかけばいいのか、どの程度特徴をはっきりかけばいいのかという  
ことは、まだまだコンピューターには無理だからです。

長文読解練習2「平均という言葉の意味」

<本文を読む前に>

## 省略

### < 練習 A >

#### ( 1 )

< 1 > ~ < 3 > : 暖冬と平均気温

< 4 > ~ < 7 > : 地球温暖化

#### ( 2 ) 第六段落

### < 練習 B >

( 1 ) その冬の『平均気温』が平年 (= 過去 30 年間の平均) と比べて 0.5 度以上高い場合に使う言葉です。( 第二段落 ?.5-6 )

( 2 ) 大気中の二酸化炭素濃度が高くなることによって、まるで地球全体が温室のようになることです。

( 3 ) 平均気温が 1 度でも上がるだけで、気候ががらりとかわり、私たちの生活に深刻な影響が出るということを示したかったからです。( 第二段落 ~ 第五段落 )

( 4 ) 地球温暖化に対して「今」何かしなければ大変なことになる。( 第六段落 )

#### ( 5 )

- 1 . 地球温暖化に対して、今何もしないで、私たちの生活に深刻な影響が出た時。  
( 気候ががらりと変わって、作物が大きな被害を受けたり、南極の氷が溶けて海の下になってしまう場所も出た時 )
- 2 . 地球温暖化に対して、今何か対策を立てて、それを実行することによって、深刻な被害を出さずに済んだ時 ( / 深刻な被害を免れた時 ) \* 「免れる」新出語

## 長文読解練習 3 「犬と人間」

### < 本文を読む前に >

#### 省略

### < 練習 A >

#### ( 1 )

< 1 > ~ < 3 > : 普通のペットとしての犬

< 4 > ~ < 7 > : 体が不自由な人を助けてくれる犬

( 人間のパートナーとしての犬 )

注 : 分け方は他にもあるが、第四段落の最初の「しかし、反対にどんどん乗ってほしい

と思う犬もある」という文から判断して、その前と後で分ける。

- ( 2 ) < 4 >      < 5 >      < 6 >  
    盲導犬      聴導犬      介助犬

( 3 ) 第六段落

< 練習 B >

- ( 1 ) ・ ペットとしての犬は、電車にそのまま連れて乗れないが、盲導犬はそれができる。  
    ・ 盲導犬も聴導犬も介助犬も体が不自由な人を助けてくれる犬だが、盲導犬だけが電車と一緒に乗ることができる。

( 2 ) 第四段落 ? .23-25

電車が揺れたり、食べ物のにおいがしたり、近くの人のお金がぶつかったりすると、ほえたり騒いだりかみついたりすること。

( 3 ) 危ない人間と一緒に電車に乗るくらいなら犬と一緒にのほうがむしろ考えることが普通になる社会。(人間と一緒にいるより犬と一緒にいるほうが安心できる社会)

( 4 )

- 1 . 家族の一員として扱われていても、公共の交通機関と一緒に乗ることはできないのはしかたがないことだと思っている。( 第一段落 ~ 第三段落 )
- 2 . 家の中にとじこもっていないで、普通の人と同じように街に出ることができる社会になってほしいと思っている。( 第五段落 ? .37-39 )
- 3 . 公共の交通機関と一緒に乗れるように法律を変えてほしいと思っている。そして、そのような犬に対して、人々の見方も変わってほしいと思っている。( 第六段落 )

( 5 ) 省略

注 : 160 頁の注に書かれているように、その後聴導犬と介助犬に関する法律が成立し、筆者の主張に沿った形になってきている。ただ、注にあるように「努力既定」になっている部分のことを考えると、「このような犬たちに対する私たちの理解も必要だ」という筆者の主張については、まだまだ考えるべきことがある。

長文読解練習 4 「コンビニの前の風景」

< 本文を読む前に >

省略

< 練習 B >

- ( 1 ) 一つはコンビニの前で一服している風景で、もう一つはペットボトルを(リサイクル用の)ゴミ箱に捨てている風景である。
- ( 2 ) オフィスの中が禁煙で、建物の前にも灰皿がないので、灰皿が置いてあるコンビニの前まで行ってたばこを吸う。( 第二段落 )
- ( 3 ) (ペットボトルの)リサイクルの入口としての役割である。( 第七段落 ?.46-47 )
- ( 4 ) ・(捨て方の説明を読んでいるのを見て)いかにも子供らしいと思った。  
( 第三段落 ?.21-22 )
- ( 5 ) 子どもが持ってきたものと全く同じサイズでラベルがきれいにはがされたボトルを持ってきたからだ。( 第七段落 ?.42-43 )
- ( 6 ) 今までは何も考えずにコンビニの前で一服していたのだが、コンビニにペットボトルを捨てに来た親子を観察してから、自分もだれかに観察されていることに気が付いたからだ。
- ( 7 )  
省略